

2026年9月1日

報道機関 ご担当者各位

催事案内希望

学校法人 河合塾
経営戦略推進室

名古屋大学の最先端研究を高校生へ。 名古屋大学×河合塾「名大研究室の扉」2026年秋開催

河合塾は、名古屋大学との共催により、特別講演会「名大研究室の扉」を2026年9月20日(日)に千種校、同27日(日)に名駅校で開催します。高校生・高卒生とその保護者を対象とした本イベントでは、名古屋大学の教員が最先端の研究や学術研究をわかりやすく紹介。名古屋大学での学びの魅力を伝えます。

■名古屋大学の研究者と直接対話できる特別な機会

2014年から始まった河合塾と名古屋大学の共催イベント「名大研究室の扉」。名古屋大学の教授陣が語る最先端の研究内容は、大学での学びをイメージできる刺激的な場として、名大志望者をはじめ、毎年多くの高校生に支持される人気企画です。

13年目となる今年は、文・医・経済・農の各学部の教授陣が登場。「文学とダンス」「DNAの傷を直す仕組み」「証拠に基づく政策立案」「フィールドサイエンスの魅力」の各テーマでそれぞれの研究内容をわかりやすく説明いただきます。高校までの学びとは大きく異なる、大学ならではの学びを実感できる貴重な機会です。

教授による講演の後には、各学部2名の大学院生が登場。研究内容や大学生活について語ります。受験生に近い視点から、大学・大学院で学ぶ意義や研究の楽しさを伝えます。質疑応答の時間では、講演内容に関する質問に加え、研究活動や将来のキャリアについて直接質問できます。

大学での学びを身近に感じられる本イベントは、名古屋大学の志望者はもちろん、これから志望大学を考える高校生にとっても自身の進路や将来について考える機会となります。ぜひ貴媒体でご紹介ください。当日のご取材も歓迎します。



■「名大研究室の扉」開催概要

●開催日時・講演テーマ・講師・会場：

実施回	講演会日時	学部	講演テーマ	講師	会場
第69回	9月20日(日) 13:00~15:00	文学部	文学とダンス ー学際的研究をめぐってー	山口 庸子氏 人文学研究科 人文学専攻文献思想学系 教授	河合塾 千種校
第70回	9月20日(日) 15:00~17:00	医学部	DNAの傷を直す仕組みを解き 明かす	中沢 由華氏 医学系研究科 神経疾患・腫瘍分子医学 研究センター 教授	
第71回	9月27日(日) 13:00~15:00	経済学部	「証拠に基づく政策立案」で必要な 証拠とは？	萬行 英二氏 経済学研究科 国際経済政策研究センター 教授	河合塾 名駅校
第72回	9月27日(日) 15:00~17:00	農学部	フィールドサイエンスの魅力	中川 弥智子氏 生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻 准教授	

各回共通プログラム

1. 名大教員による最先端研究・学術研究に関する講演（約50分）

名古屋大学の研究室の特長や専門分野の講演を聴くことで、興味が広がり、大学で学びたいことを考える機会になります。

2. 大学院生による大学生活や研究について講演（約40分）

大学生活や研究内容、高校時代の話や進路決定など、受験生に近い目線から話を聴くことができます。

3. 講演者や大学院生への質問タイム（約20分）

講演内容についてはもちろん、研究活動や将来の進路など具体的な内容を講演者に直接尋ねることができます。

- 対象 : 中学生・高校生・高卒生とその保護者 ※生徒のみ、保護者のみのご参加も可能です
- 参加費 : 無料
- 詳細・お申し込み : www.kawai-juku.ac.jp/r/meidai26/
- お問い合わせ : 河合塾 千種校 (TEL : 052-735-1588) ・ 名駅校 (TEL : 052-451-0581)

※当イベントの詳細については、添付資料をご覧ください。

－ 本件に関する報道関係者様のお問い合わせ先・取材申込先 －

河合塾グループ グループ広報センター 【TEL】 03-6811-5508

【E-mail】 press@kawaijuku.jp 【受付時間】 9:00～18:00 (土日祝・年末年始を除く)

共催

名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

×

河合塾

2026年

河合塾生以外の方もご参加いただけます。

行きたい想いが加速する

名大研究室の扉

高校生・高卒生
保護者様対象
(中学生も可)

参加無料 要申込

名古屋大学や名古屋大学大学院で実際に行われている最先端研究、学術研究について、高校生・高卒生向けに、わかりやすく講演します。研究の奥深さ、楽しさ、やりがいを実感し、自分が進学した先で何を学びたいのかを考える絶好の機会です。名古屋大学を志望している方はもちろん、大学、その先の大学院進学をめざすすべての方、そして進路を一緒にお考えの保護者の方も、ぜひご参加ください。

イベント当日の流れ

① 名大教員による最先端研究、学術研究についての講演(約50分)

名古屋大学各学部の最先端研究や学術研究に携わる方の話を聴くことができます。志望学部に限らず、さまざまな専門分野の研究についての講演を聴くことで、興味が広がり、将来自分が大学で何を学びたいのかを考える良い機会になります。また、名古屋大学の研究室の特長にも触れていただけます。

② 大学院生による大学生生活や研究についての講演(約40分)

大学院生活や研究内容、高校時代の話や進路決定などについて話を聴くことができます。受験生に近い目線での講演が魅力で、大学院生のリアルな日常生活も知ることができます。「学問を追求して頑張りたい」という皆さんの気持ちを後押ししてもらえる内容ですので、自身の将来も想像しつつお聴きください。

③ 講演者や大学院生への質問タイム(約20分)

講演内容についての質問はもちろん、現在の研究活動や将来どういった道に進むことができるかなどの具体的な内容を講演者に直に尋ねることができます。名古屋大学の研究が、私たちの未来とどのように関わっていくのかを実感できます。高校生の皆さんは、モチベーションアップのためにも、積極的に質問してください。

開催日時・講演テーマ

実施回	講演会日時	学部	講演テーマ	講師	会場
第69回	9月20日(日) 13:00~15:00	文学部	文学とダンス ー学際的研究をめぐるー	山口 庸子氏 人文学研究科 人文学専攻文献思想学系 教授	河合塾 千種校
第70回	9月20日(日) 15:00~17:00	医学部	DNAの傷を直す仕組みを解き 明かす	中沢 由華氏 医学系研究科 神経疾患・腫瘍分子医学 研究センター 教授	
第71回	9月27日(日) 13:00~15:00	経済学部	「証拠に基づく政策立案」に必要な 証拠とは?	萬行 英二氏 経済学研究科 国際経済政策研究センター 教授	河合塾 名駅校
第72回	9月27日(日) 15:00~17:00	農学部	フィールドサイエンスの魅力	中川 弥智子氏 生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻 准教授	

申込方法・当日のご案内 無料・要申込

受付期間:7/1(水) 13:00~各実施日前日まで

<申込方法>

- ・お申し込みサイト内の『『個人情報の保護に関する事項』について』に同意のうえ、お申し込みください。
- ・お子様のお名前・ご連絡先でお申し込みください。
- ・定員になり次第、受付を終了します。

＼申込はこちら／



<当日のご案内>

- ・事前にお申し込みされていない方は、入場をお断りします。
- ・当日は開始20分前より受付を開始します。
- ・講演会会場(教室)は、校舎ロビー等の掲示板にてお知らせします。
- ・筆記用具をご持参ください。
- ・ご来塾の際は、公共交通機関をご利用ください。

第69回
文学部

講演テーマ 文学とダンス ―学際的研究をめぐって―

講演者 やまぐち ようこ
山口 庸子 教授

人文学研究科 人文学専攻文献思想学系



教員の講演内容

偉大な作家の作品に沈潜してその意味を探る、というのが文学研究の一般的なイメージでしょう。作品が非常に重要であることはもちろんですが、研究の手法は多様化しています。身体性に注目する、という方法もその一つです。「文学とダンス」というタイトルで講義をする、と、無関係と思っていた分野の繋がりがわかってびっくりした、という感想をしばしば頂きます。専門的な知を深めると同時に、複数の視点を意識することで、新しい問題やその解決策を発見する可能性が広がります。本講演では、そのような学際的な研究の魅力についてお話ししたいと思います。

◆研究トピックス

私の専門は、ドイツ文学、舞踊史、身体文化です。現在は、女性詩人ゲルトルト・コルマルの研究のほか、20世紀初頭のドイツ語圏を中心に、思想や文学における人間像・身体像の変化と、新しい舞踊や人形劇の成立との関連を研究しています。また研究成果の学外への発信も積極的に行っています。すでに6回を数えた『ダンス・スコア特別講座シンポジウム』(東京外国語大学の研究グループ・愛知県芸術劇場と並び主催)では、毎回、ダンスに関わるテーマで多様な分野の研究者をお招きし、多くの市民の方々にご参加を頂いています。

- 13:00～
名大教員による講演
- 14:00～
大学院生による講演
- 14:40～
質疑応答

大学院生の研究内容 ①

所属・専攻: 人文学研究科 人文学専攻
専門分野: 言語学

「私は昼ご飯を作る。」とI make lunch.の二つの文は、同じ意味を表していますが、日本語の文では動詞が文末に来るのに対し、英語の文では動詞が主語と目的語の間に置かれます。このように、言語によって語順は様々です。例えば、我々にとって馴染み深いSOV型とSVO型のほか、動詞が文頭に来るVSO型も存在します。言語学は、世界中の言語の間に見られる共通性を見出し、言語の本質的な特徴を明らかにしようとする学問です。

人間の言語は、音、単語、文、意味など様々な要素から成り立っており、それぞれの要素に応じた下位分野が存在します。その中で私は、日本語母語話者と日本語学習者の音声の違いに関心を持ち、研究を進めています。

大学院生の研究内容 ②

所属・専攻: 人文学研究科 人文学専攻
専門分野: 日本史学

私たちが生きる日本とはいったい何なのでしょう？ この問いを探究すべく、戦前の日本について、樺太という植民地に焦点を当てながら研究しています。今日の日本を考える上で、アジアとの間に山積する歴史問題の存在が特に重要な意味を持っていると思われるからです。このような歴史問題の多くは、日本が明治時代以降に勢力を広げた過程や結果に由来していると考えています。過去について知るためには、新聞や雑誌、個人の手紙や日記などの過去の断片を集める必要があります。そのため、様々な場所に足を運び、出会うことのできた情報を読み解きながら、植民地帝国であった日本について研究し続けています。

第70回
医学部

講演テーマ DNAの傷を直す仕組みを解き明かす

講演者 なかざわ ゆか
中沢 由華 教授

医学系研究科 神経疾患・腫瘍分子医学研究センター



教員の講演内容

ヒトの遺伝情報はDNAで記録され、次世代へ受け継がれています。しかしDNAは、様々な要因によって日々傷つけられています。生物は、これらの傷を直す仕組みを備えており、生体の恒常性を保つとともに、遺伝情報を安定に維持しています。このDNAの傷を直す仕組みを調べ、その異常によって発症する疾患を理解し、治療薬開発へと繋げる一連の研究について、最新の解析技術にも触れながらお話しします。

◆研究トピックス

DNA修復機構は、体を構成する全ての細胞で機能する基本的なシステムですが、まだ解明されていない点も多く残されています。この機構の異常は、がんの発症や老化の進行にも関係することが示唆されており、詳細なメカニズムの解明は医療分野にも大きく貢献します。私たちは、次世代ゲノム解析などの最新技術を取り入れながら、分子遺伝学および分子細胞生物学的な解析により、DNA修復機構と疾患発症メカニズムの解明に取り組んでいます。

- 15:00～
名大教員による講演
- 16:00～
大学院生による講演
- 16:40～
質疑応答

大学院生の研究内容 ①

所属・専攻: 医学系研究科 医科学専攻
専門分野: 病態神経科学

皆さん、筋萎縮性側索硬化症(ALS)という病気を知っていますか？ ALSは、脳から筋肉へ「動け」と指令を伝える神経細胞が徐々に壊れ、全身の筋肉が動かしにくくなっていく病気です。進行すると、呼吸に必要な筋肉も弱まり、命に関わります。現在も根本的な治療法は確立されていません。ALSの患者の神経細胞では、異常なタンパク質の塊ができることが知られています。近年では、この塊が神経細胞だけでなく、それを支える「アストロサイト」という細胞にも見つかることが分かってきました。私は、このアストロサイト内の異常が細胞に与える影響を調べ、ALSの新たな治療法につながる発見を目指しています。

大学院生の研究内容 ②

所属・専攻: 医学系研究科 総合医学専攻
専門分野: 細胞生理学

皆さんが日々覚えている英単語の知識や何気ない友達との会話は、脳のどこに、どうやって保存されるのでしょうか？ 記憶を留める鍵となるのが「海馬」という領域です。脳内では、神経細胞同士が電気信号をやり取りし、特定の繋がりを強化することで情報を記憶します。記憶の要である海馬でもこの仕組みが働いていますが、実はこの時、情報を受け取った細胞も逆向きの信号を出しており、この信号同士の絶妙なタイミングの差が繋がりの変化に影響します。私はこの信号の発生源である「軸索起始部」という小さな領域に着目し、細胞の電気活動を直接測ることで、記憶が作られる精巧な仕組みに迫っています。



第71回
経済学部

講演テーマ 「証拠に基づく政策立案」で必要な証拠とは？

講演者 まんぎょう えいじ
萬行 英二 教授

経済学研究科 国際経済政策研究センター



教員の講演内容

より良い社会を目指して、政府は政策を立案して実行します。例えば、昨今では少子化が危惧されており、政府は、高校教育の無償化、保育所の整備、男性の育休取得促進などの少子化対策を実施してきましたが、これらの政策は出生数の減少に歯止めをかけることに役立ったのでしょうか。少子化対策に限らず、近年では「証拠に基づく政策立案」が志向されていますが、政策立案に必要な証拠とはどのような証拠でしょうか。この講演では、研究者が示そうとしている証拠とはどのようなものか、さらには研究における最難関ポイントをお話します。

◆研究トピックス

世の中には、健康な人もいれば、そうでない人もいます。高学歴な人もいれば、そうでない人もいます。これは厳然たる事実ですが、それではどのようにしてこのような格差が生まれるのでしょうか。健康や教育などの人的資本に格差が生まれるメカニズムについて研究をしています。研究内容は、端的に言えば、「AがBを引き起こした」ことを実証的に示す(データを使って証拠を提示する)ことです。
例:(開発途上国において)清潔な水を使えるようになると子供の健康は改善する。

■ 13:00～
名大教員による講演
■ 14:00～
大学院生による講演
■ 14:40～
質疑応答

大学院生の研究内容 ①

所属・専攻: 経済学研究科 社会経済システム専攻
専門分野: ネットワーク経済学

私たちは、友人関係やビジネスのつながり、SNS上でのフォロー・フォロー関係など様々な社会的なつながりに影響されながら行動しています。例えば、友人が使っているアプリを自分も使い始めたり、進学先や将来の仕事について周囲の意見を参考にしたりすることがあります。ネットワーク経済学では、このように選択とつながりが互いに影響し合う仕組みを分析します。その中でも私の研究は、政府や自治体といった政策決定者の立場に立って、誰に補助金を出せば望ましい状態を達成できるのかを数理モデルを使って分析しています。人々がつながりの中で相互に影響しあうため、これらの社会的な影響も詳細に考慮することでより効果的な政策を実行できるのです。

大学院生の研究内容 ②

所属・専攻: 経済学研究科 産業経営システム専攻
専門分野: 財務会計

企業が一定期間にどれくらい利益を稼いだか、という企業の業績は、財務諸表というかたちで公開されます。財務諸表は、基準設定機関により制定される、会計基準にしたがって作成されています。
私の研究は、その会計基準を制定する際の基礎となる、会計原則に関する研究です。具体的には、株主から払い込まれた資本と、その資本を用いて生み出した利益を区分しなければならない、という原則について、「なぜその原則が必要なのか?」「どこまでが資本といえるのか?」「そもそも資本とは何か?」などの視点から、検討をおこなっています。

第72回
農学部

講演テーマ フィールドサイエンスの魅力

講演者 ながわ みちこ
中川 弥智子 准教授

生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻



教員の講演内容

農学部、特に森林に関連する研究では、現場での調査が欠かせません。興味深い現象を発見・観察したり、予想外の結果に頭を悩ましたりしながら、その背景にあるメカニズムや自然の原理を、関連分野の技術や知識も絡めながら理解する学問の醍醐味を皆さんと共有したいと思います。

本講演では、世界の様々な森林での私の体験談も交えながら、フィールドサイエンスの最先端の研究を紹介します。

◆研究トピックス

世界には様々なタイプの森林が存在し、そこには多様な種の樹木が生育していますが、その特徴や機能の違い・類似性に着目した研究を進めています。一見、変化がないように見える森林も、刻々と、そして時には劇的に変化します。気候変動によって温暖化や乾燥化の進行が懸念されている昨今、その生育環境の変化が樹木、ひいては森林に与える影響の評価や予測を目指して、アジアの様々な森林でフィールド研究を展開しています。

■ 15:00～
名大教員による講演
■ 16:00～
大学院生による講演
■ 16:40～
質疑応答

大学院生の研究内容 ①

所属・専攻: 生命農学研究科 動物科学専攻
専門分野: 遺伝学

私たちの体では、精子や卵子といった生殖細胞がつくられ、親のDNAが子へ受け継がれます。この過程では「減数分裂組換え」という仕組みによってDNAが組換えられ、遺伝の多様性が生まれます。その際DNAは一時的に切断されますが、DNA切断は本来とても危険で厳密な制御が必要です。しかし、その制御の仕組みには未解明な点が多く残されています。私はDNA上の「付箋」や「マーカー」にあたるエピジェネティック修飾に着目し、それがDNA切断と組換えの制御に果たす役割を明らかにすることを目指して研究しています。

大学院生の研究内容 ②

所属・専攻: 生命農学研究科 応用生命科学専攻
専門分野: 分子生物学

私は現在、生物の力を借りて物質を生み出す「バイオものづくり」の研究をしています。この分野では、遺伝子の編集や導入によって有用物質を生産しますが、目標とする生産量に届かないケースがしばしばあります。その際、培養条件の検討や遺伝子の再設計といった「最適化」が必要となりますが、これには膨大な時間と労力がかかるという課題があります。私は、特にタンパク質生産に焦点を当て、タンパク質の設計図となるDNAに短い配列を付け加えて生産量を増大させる技術について研究しています。将来的には簡便な遺伝子操作でどんなタンパク質でも安定して生産できる画期的なプラットフォームの確立を目指しています。